

第8回池田町義務教育のあり方検討委員会 会議録（概要）

日 時 令和7年11月26日（水） 午後6時～午後7時30分
場 所 池田町役場2階 大会議室
出席委員 委員長 池田園小運営協議会代表 梅牧 力
副委員長 高瀬中運営協議会代表 宮本 和紀
池田保育園保護者代表 貝梅 直輝
池田小学校PTA代表 皆川 瑞穂
高瀬中学校PTA代表 藤井 周二
自治会協議会会长 常盤井 智美
自治会協議会副会长 中山 廣忠
池田小学校長 工藤 美恵
会染小学校長 池内 博
高瀬中学校長 原 肇
識見を有する者 村瀬 公胤
識見を有する者 丸山 史子
公募による者 丸山 尚子、佐藤 豊、平林 利香子
池田町社会福祉協議会会长 中嶋 一光
欠席委員 会染園小運営協議会代表 櫻井 康人
会染小学校PTA代表 栗林 絵美
識見を有する者 下川 威
事務局 教育長 山崎 晃、学校保育課長 井口 博貴
学校保育課学校保育係長 高木 さおり
学校保育課学校保育係 丸山 智史
書記
傍聴 5人

1 開会

2 委員長あいさつ

3 教育長あいさつ

4 協議

答申案について

梅牧委員長より答申案説明

(中山委員)

学校が再編成されてスタートするまでに大体どういう工程で何年ぐらい掛かるか教えてほしい。

(山崎教育長)

梅牧委員長の話にもあったが個々の状況によって何とも言い切れない。大町市の場合は中学校の再編について検討委員会で決定してからおよそ3年掛かったので、3年というのは一つの目安なのかなと思っている。

(丸山尚子委員)

今までの協議の中で、メリット・デメリットや事実的なところや費用面のことを羅列するという話も出ていたが、検討した内容を実施した時の効果や費用などを答申に書き出すと思っていた。

(梅牧委員長)

義務教育学校のメリット・デメリットは記録に示している。一定の検討を経て方針を示した。

(中山委員)

各校 10 人以上で 2 校体制を維持するとなっているが、池田小学校が 15 人、会染小学校が 5 人というような場合にはどのように対応するのか。

(梅牧委員長)

少し矛盾してしまうが、補足説明の一番最後に 20 人としたいと書いているけど、トータルとして考えていく方が良いと思っている。15 人と 5 人であれば、トータル 20 人という形で、それを 2 で割った時に考えていくしかしようがないと思っている。

(中山委員)

会染小学校と池田小学校の 2 校体制で進めると、片方の小学校の人数が多くてもう片方の小学校の人数が少ないといったケースが出ると思う。また、あまり意見が出てこない経費についてだが、今の池田町の財政状況で 2 校体制を維持出来るのかどうかを含めて考える必要がある。

(梅牧委員長)

経済的な問題に関しては、ここでは取り上げ切れない問題なので、議会の方で検討していく内容だと思っている。

(皆川委員)

これまでの話し合いで「ここではお金の話ができない」について納得のいく説明がなかつたので、今日の会議でお金についての意見が出るのは当然であり、なぜこの委員会で財政について議論出来ないかを丁寧に共有して、整理した上で合意形成を進める必要があると感じた。この委員会は、池田町の教育をどこに向けるかを多様な視点で議論し、追求する場だと理解しているので財政とは別の軸で議論することも可能だと思う。答申には重要な点が書いているという印象を持つ一方で、人によっては問題を先送りしただけという受け取り方をされかねない懸念もある。個人的には会議の目的や議論の軸（お金の話は別軸で扱ったことをもっと分かりやすく文面で示すべきだと思っている。

(村瀬委員)

お金の話がどこまで出来るのかと、メリット・デメリットの話、そしてどこへ向かって我々が何を語り合ってきたのかは記録に書かれていると思うが、もし書かれていないがあれば、今この場にいる皆でホワイトボードを使いながら足していくのも良いと思った。

(佐藤委員)

私が今これを見て思ったことは、小学校 2 校を 1 校に再編する場合、中学校のあり方も含めて検討する必要があると思う。私達が何を検討してきたかということで、特に予算関係について教職員を増やしたいけど、予算が無ければ実現できず教職員の働き方改革にも繋がらないこともありますお金の話は難しいと思っている。

池田小学校、会染小学校のどちらかで学年 10 人切るのが令和 13 年頃なので、それまでに何らかの社会情勢があるかもしれない、私達の答申として骨子を出しておけば、その時の社会情勢等を含めて、教育委員会や議会の方で審議すると思う。そういう意味で前提条件

のところに費用面のところはあえて検討しなかったと入れた方が費用や予算は抜きで、あくまで教育を中心にやったというようにすれば大変ありがたいと思う。

非常に難しい数値まで入れてその数値の根拠まで書いていっているので、私にとっては分かりやすい資料だと感じた。

(中山委員)

先程予算の話も出たけど、お金がないから出来ないとなったらどうするのか。

(丸山尚子委員)

お金がなかったらなくとも、こういう子どもを育てるんだということを話し合ってきたと思うので、子どもの姿を追求していくことはぶれないと思う。

(皆川委員)

例えはコミュニティスクールが盛んで、10年間で教育移住者が4万人増えた千葉県流山市みたいなところもあって、工夫や努力によって、税収や移住者を増やせるような結果を出している自治体がある。だから、この場で話していくべきではないかなと思っていて、教育移住者に来てもらうために魅力的な教育をしていく、単にお金がないから統廃合するよりは、今校長先生方が努力しているような魅力的な学校作りを、それぞれの学校で維持してなおかつプラッシュアップして、魅力化していくことの方が大事だという話を何度もしてきたと思うので、未来についてもここで話を聞いて、町としてもそこを踏まえながら、この答申も参考に話を進めて欲しい。このまま絶望的にお金が無くなったらどうするというような話だけじゃなくて、色々な努力の中に財政に繋がる部分も見えてくるかもしれない、それが教育移住とか教育をきっかけに町おこしに繋がっていくかもしれない、今みたいな懸念への安心材料になると思う。

(丸山尚子委員)

どういう未来を描きたいかはまだ先は確定したわけではないので、尻すぼみでリスクマネジメントで手堅くやっていくよりはこれからどうとでもなると思うように考えたい。飛騨高山ではふるさと納税の一部を先進的な教育に充てることに踏み切っていて、最近では各学校に特別支援級じゃなくても、支援員を設置してステップバイステップで成功体験をさせる取り組みなどの視点もあると思う。

(皆川委員)

今みたいな話とかも含めて義務教育のあり方検討委員会だったので、テーマが広く捉えられるというところもあったと思うが、ケーススタディ的な部分が少し不足していると思っている。例えば、こういう自治体では、こういう努力をしていて、こういうふうに人が増えているというような情報を集めて共有し何が必要かということをイメージして、池田町はそのことについて具体的に動けそうなのかそうではないのかとかも含めたやり取りが出来ていないから、心配の声が出ると思う。

数年後に人数の状況を見て話し合うことにはなっているので、そこから急激にお金が冷え込んで池田町が危ない状況になるとは考えられない。今この場でお金が無くなったらどうするかについての答えは誰も出せないと思う。

(丸山尚子委員)

梅牧委員長が口頭で話していた「少人数でも多くの経験と出会いの機会を得られるように進めることができが背景にある」が文書に入っていないが「学校の教育活動を積極的に地域に知らせ、さらに地域との連携、小学校間の連携を進める」のところにその思いがあると思った。しかし、この文言を文書に入れないと今とやることが変わらないと誤解する人もいると思うので、「学校教育の内容」かもしれません「児童への生徒の減少への対応」のところに入れてほし

い。アンケートにもあったように、沢山の子供たちと交流したいという思いがあつて、人数が減ることで友達の関係が減ることを危惧されている親の意見もあり、たとえ2校が1校になつたとしても、そこは大丈夫ということは話し合ってきた内容なので入れてほしいと思った。

(梅牧委員長)

いくつかこの委員会で出来なかつたことの指摘もあり、今みたいにこの内容については入れてほしいという意見もある。これはたたき台なので、予算に関しては今のところここで考えなくても良いと思っている。全てのところで、検討できなかつた部分はあるかと思うが今まで出た意見の中で、こういう点について答申の中に含めてほしいなど意見はあるか。

(丸山尚子委員)

個人的に印象に残っていることは、教員の忙しさや学校経営の負担をどうにか負担が無くなるようにしたら、子供たちにもっと余裕を持って取り組めるのかなと思っている。教員の負担が減らない結果、子供に本当に丁寧な教育が出来るか心配している。

(梅牧委員長)

池田小学校で工藤委員が職員の負担を軽減しようということで工夫していたが、教員の仕事の負担は、子供たちにやってあげたいと思うと忙しくなる。ただ、その辺りの難しさもあり限界がないので、大人数にすれば教員を増やせばどうにかなるかというと、そこもまた難しい部分がある。丸山委員が先程発言したように、もう少しこのところの部分について具体的な言葉を入れて促すということで受け止めて良いか。

(丸山尚子委員)

村瀬先生の意見を聞きたい。

(村瀬委員)

職員の負担軽減についてはそんなに心配しなくていいと思っている。どこまで可能か分からぬのと現実に体験したことはないが、6年生が修学旅行に行くと言ったら、2校のうち1校に修学旅行の担当者がいて、一緒に行けばいいというような工夫をこれから時代は多分やっていくのかなと思っている。しばらく2校で頑張っていく時にはこのような工夫が必要だと思う。

(丸山史子委員)

小規模校になると1人当たりの先生方の負担が、大きくなるのではないかと心配をしているが体験したことがある身としては心配していない。今から53年前に広津に広津小学校という小学校があり、在校生は63人で、担任6人、校長先生教頭先生そして事務の先生、養護教諭の先生で学校運営を回していた。当時はまだ専科という名称もなく専科の先生も配置していなかったが、当時の6年生の担任が社会、5年生の担任は算数、4年生の先生は理科が得意だったので、それを4、5、6年生に今で言う専科のような形で教えていて、1、2、3年生は担任が全ての教科を持っていたので担任が全教科を教えていた。当時としてはアイデアのある校長先生だと思い、全校生徒63人で十分1校としての存在感もあり、子供たちも誇りを持って勉強していた。

(常盤井委員)

答申の骨子について、3番の「本答申に至る計画」とあるが私は今年から入つて、昨年度からの経過というのは全然分からないので、出来れば経緯経過も第1回から別刷りのものを出した方が分かりやすいと感じた。

私も教員をやっていて、少人数の方が遙かにやりやすいことはよく分かっているが、各学校ごとにやつた上で、さらに連携しないと業務が増えることにつながり時間数も増えて非常

に大変。なので、必ずしも業務を一つにまとめたから楽になるんじゃなくて、それで業務が増えるんだと思った方が良いと思う。

(中山委員)

あくまで答申ということだから、教育委員会に提出して教育委員会の人たちがみんなこれを見て考えると思うが、教育委員会の人たちが我々で検討したことをうまく汲み取れるかどうかが心配。

(梅牧委員長)

今日も2人の教育委員が傍聴しているので伝わっていると思う。経過について、教育長から教育委員に説明をしていて、ただ結果が出たからさてどうするかという訳ではなく、並行して実情を伺っていると聞いているので大丈夫だと思う。

発言をしていない委員からも意見をお願いしたい。

(藤井委員)

私自身は統合の方が良いと思っていたが、この答申を受けて教育委員会なり学校なりで方針を決めてほしい。

(貝梅委員)

私も娘が年長にいて、今年池田保育園と一緒に友達が増えたが、小学校でまた別々に別れてしまうのが寂しいと言っていたので、そういう意見もくんで反映してほしいなと感じた。

(平林委員)

2校を1校に再編や統廃合するということが、この時点で決まらなくてまず良かったと思う。点で見るんじやなくて、線でずっと話し合っていかなきゃいけない課題だと思っているので、魅力的な学校作りを未来志向型で考えていくべきだなと思う。ずっと町民が注目していくべきことで、池田町の義務教育のあり方についてずっと注目され続けるように話し合っていくことが大切だと思う。

(中嶋委員)

全体的な答申の内容について私は要約してもいいと思うが、これから児童数や財政についてはここで検討してもしようがないと思っている。行政との協議の中で、その時の状況によってやはり教育の予算は必要なだけは確保出来ると思う。それから、この委員会の検討したことについてはその都度、教育委員会で下ろされて内容を検討していると聞いたので、教育委員にもあり方検討委員会の流れというのは大体把握されていると思うので、この答申について心配してもきりがないと感じる。深く掘り下げると答申がいつになんでも出せないと思うので、ある程度のところで線を引く中で、答申は答申として出して、その中で差し戻しになることがあればこの委員会でまた検討すれば良いと思う。

(工藤委員)

3点について私の考えを学校の立場として述べたい。1点目は、今後の見通しで再度検討委員会を立ち上げると書いており、先程令和13年にはこの人数になる考え方の話があったと思うので、令和10年には次の検討委員会で答申を出さないといけない。となると、この答申が出るのに1年半ぐらい掛かるので、令和8年からまたもう1回やるのかなと思っていてそこのスケジューリングが気になった。

2点目は、過日信大の教授の先生の講義を受ける機会があって、問い合わせを見つける力、課題を見つける力、課題を解決していく力そういうものを作るために多様性を育む、いろんな人々と接することで、多様性を認められるそういうことが必要だと感じた。そういう子供たちがこれから社会には絶対に必要だということで、学習指導要領も大きな転換期を迎えて

いる。池田町の子供たちの将来を大切にしたい時に、どういう学校規模を編成することが子供たちを育てられるのかという観点でも検討してもらえると良いと思っている。

3点目は、働き方改革のことについて、私は先生方の働き方改革の成功は授業だと思っている。成功体験や実体験を通して良かったという学ぶ喜びの授業が出来ていれば、子供たちは安心して学校に通えるようになり、色々な問題が起こらずイコール働き方改革に繋がるので、子供たちを大事にすることが一番だと考える。

(池内委員)

個人的には、今回の答申の骨子を見て私にとってはすっと心に落ちてくるものがあった。学校現場の立場から言うと、一番大事なものはやっぱり子供たちのためにということが大前提にあると思う。学校の規模が大きいにしても小さいにしても、学校の先生たちは子供たちのために何ができるかなということを、一生懸命やっていると伝えたい。それによって子供たちも工藤委員の話にもあったように、安心して学ぶことが出来、それが働き方改革にも繋がっていくってがあるので、基本的には今回示したもの尊重しながら、学校の先生は、その環境に応じて今何ができるのかということを、考えてやっていく。現場としては頑張っているということを伝えた上で、どんな形になったとしても頑張っていくことは伝えたいと思っている。

(原委員)

先程から話題になっているところで、私の経験から前任校が小規模校だったので、修学旅行とか他校と一緒に行ったことがある。先ほど負担が増えるという話もあったが、それぞれの学校を行き来するのに、片道20分以上かかるところだったので頻繁に会議は出来なかつたがコロナ禍の中でも、オンラインで先生同士がお互いに会話が出来、修学旅行の係り会もオンラインでやれたので、上手くやれたと思う。

また池田町のことを考えると、保育園も含めて今同じベクトルの方向で学校作りを授業中心に進めているので、もし仮にどこか一緒になるような話でもスムーズに進められると思っている。現時点で上手くいかないところについて、アイデアを出し合ってやっていくしかないのかなと個人的に思っている

(梅牧委員長)

先程のスケジュールの問題について、人口動態調査の予想でやれば工藤委員が言った日程になるが、私立保育園が出来て児童が実際に移ってきてているという意見もあるので、少し先に伸びていると考えている。また、答申に出す人数について非常に頭を悩ませながら、どういう数が良いのか考えて数字を出した。この答申の方向で良いか。

(中山委員)

この方針として教育委員会が会議をやった議事録は見ることが出来るのか。

(梅牧委員長)

全部公開しているので誰でも見ることができる。この委員会でアンケートもとり、そのことについて検討してきたので、これについては入れて欲しいといった具体的な提案があれば、入れていきたいと思っているので聞きたい。

(丸山尚子委員)

子どもにつけたい力として、問い合わせや課題を見つけ出し解決していく力、多様性を認め合う機会というところが盛り込まれて、少人数でも多くの経験と人数に関わらず多くの経験と出会いの機会を得られるように進めていくことも入れれば良いのかなと聞いていて思った。

(皆川委員)

本答申に至る経過を別刷りで用意することに賛成したい。少し丁寧に書けば今までの経緯

も含めて、答申に全て入れなくてもフォローになると思う。

(中山委員)

答申に係る教育委員会としての考えがまとまるのはどのくらい時間が掛かるのか。
(山崎教育長)

やってみないと何とも言えないが、半年から1年ぐらいかかると思っている。
(梅牧委員長)

答申の骨子の方向が決まれば答申の骨組みはそのままにして、今日出た意見も含めて私と宮本副委員長に一任してほしい。もちろん一任というのは、委員長と副委員長で進めるということではなく、次回の委員会で経過も含めたものを作つて全員に提示する。次回の委員会では答申も含め枚数が増えると思うので、出来れば事前配布をして意見をもらい、文言の修正や追加を入れて作っていく。一番最後の答申については、セレモニーのように答申を教育長に渡す予定である。

(丸山尚子委員)

学校教育の内容のところで、「児童生徒一人ひとりに寄り添った指導や支援を希望する意見や子供たちの主体性や個性を大切にした取り組みを行い」の記述のところに、学校に行けない子供も同じように教育を受けられるようにしてほしいので、「全ての子供に」とどこかに入れてほしい。普通に学校へ行けない子供たちも、多くの出会いや多様性を認められるようたくさんの方の機会を得られるよう進めればとても安心する。

(皆川委員)

「少人数であっても適切な教育は可能であり」というこの補足説明の部分が、より解像度高く伝わる形が良いのかなと思うので、例えば「各校が取り組んでいる縦割りの関係性を今まで以上に大切にし」のような文言が入つてくると、少人数でも色々な学年との交流の中で多様性について触れるんだなとイメージしやすいと思う。今まで会議の中でも、縦割りのことについて、議論の中で出ていたと思うので具体的な文言として載せると良いのかなと思う。
(宮本副委員長)

今回、答申の骨子について多くの意見をもらった。また答申案という形でまとめて事前配布ということなので、内容を確認してもらって指摘してほしい。

5 その他
なし

6 連絡 第9回検討委員会は1月26日(月)18時より池田町役場大会議室で開催する。
*必要に応じて臨時に委員会を設ける場合がある。

7 閉会